

「イワクラ学の可能性」

渡辺 豊和

ストーン・ヘンジとソルズベリ
ー寺院を結ぶほぼ南北の線上中間
にオールドサラムがのり更にスト
ーン・ヘンジの北にタン・ヒルシ
レンセスターがのってくる。この
線を一辺としストーン・ヘンジ、
オールドサラム、グローブリー寺
院の三点で構成される三角形は一
辺六マイルの正三角形でもある
(F・ヒッチング著、吉岡景昭訳
『謎の巨石文明』白揚社)。これら
の線は地下水脈上にあり「レイ・
ライン」と呼ばれるがこれは不可
思議な力線であることはイワクラ
学会の会員なら周知であろう。ス
トーン・ヘンジ、オールドサラム、
グローブリー寺院、ソルズベリ
寺院などはレイ・ポイントである
のはいうまでもない。こんなレ
イ・ラインは他にも多数ありこの
線上にはストーン・サークル、立

石、噴丘、ケルン、ドルメン、マ
ウンド、寺院などが正確に乗って
いる。レイが示すという不可思議
な力について科学的証明はなされ
ていないし、むしろ科学者ほど言
下に否定する。ストーン・ヘンジ
がレイ・ポイントであるというの
はよく理解できる。あそこでは磁
気が乱れているし、世界の目ぼし
い巨石建造物上でもほとんど例外
なく磁気の乱れがみられる。これ
らのポイントは地下から何らかの
力が湧き出しているのは間違いな
い。これが科学の俎上にのせられ
ていないのはその正体がいまだ科
学的に解明されていないに過ぎな
い。ともあれレイ・ポイントであ
るストーン・ヘンジである。高さ
五メートルはあるうかという柱が
環状に立並びその上をまぐさ石が
梁状に繋ぐ。柱と梁があればまず

屋根があつたと考えて大きな間違
いはない。この場合木造屋根であ
つた可能性が高い。もし屋根も石
材だつたら近辺に残材が散らばつ
ていてよさそうなのにそれがな
い。ストーン・ヘンジは石造建築の成
立過程を示していると私には思え
る。はじめはレイ・ポイントに立
石は二〜三個あつた程度だつたか
も知れない。それが次第に規模を
拡大し環状柱列にまでなつてしま
つた。その間に天文観測装置とし
ても使用されるようになったに違
いない。ヒッチングはレイ・ライ
ンの発見者、アルフレッド・ワト
キンスを紹介しているがそのワト
キンスは宗教改革以前の歴史の古
いキリスト教寺院のほとんどはレ
イ・ポイント上にあると断言して
いるそうである。もしそれが間違
っていないければキリスト教寺院は

かつては巨石建造物、イワクラか
ら発展しているといえる。レイ・
ポイントは例外なく聖所であるか
ら当然ではあるがこのことに重大
な意味が隠されている。中世の大
伽藍を建造するに完成まで三〇〇
年がかかったが、それを信者達が
一心不乱に働いてつくりあげた。
まさに信仰共同体の何代に亘る労
働奉仕によってそれは建造された。
これはヨーロッパの奇跡といわれ
る。しかしこの労働も単にキリス
ト教信仰のみの力によつてなされ
たであろうか。そうではあるまい。
古代からの聖所に建造するからこ
そ人々は喜々として労働したので
はあるまいか。外来宗教が人々の
心を根底から揺さぶるのであるうか
まさにイワクラの霊力が人々を労
働にかりたてたのだ。中世の大伽
藍(大寺院)、ゴシック大伽藍は天

上へ天上へと無数の塔を起立させ、内部は深い森林を思わせるポインテド・アーチと高い円柱の連立でできている。石材をひたすら積み重ねただけで成立する建築であるが神秘性にみちた空間にはまさに「天上のエルサレム」すなわち神の国が現出している。これはイワクラの完成形ともいえる。

日本は石造建築が結局成立しなかったから、イワクラは古代のままの姿でいたるところに散在し、その目立つものは神社の磐座として現在に至るも信仰の対象となっている。ところが磐座信仰が民俗学の対象にはなっていないようが宗教学の対象となっているであろうか。どうもそうは思えない。それはヨーロッパと違って日本では石造建築に昇華しえなかったことと深く繋がっているのではあるまいか。信仰の結晶として石造大伽藍、それが現出する神霊空間。この経験が日本人にない。だからといって宗教学の俎上にのらないというのではない。日本には木造建築の伝統がありこれは間違いなくモンス

ーン地帯のアニメイズムと深く繋がっている。ジャングルのうみだした建造方式であるからジャングルのアニメが木造建築にも宿っているのだ。磐座と木造建築の関連を研究すれば画期的な学問成果をあげることも期待できるのではないか。ことほど然様にイワクラ学会とはこうして展開していけるのではあるまいか。

渡辺豊和



イワクラ学会会長
渡辺豊和建築工房主宰
京都造形芸術大学教授
工学博士（東京大学）

イワクラ学会会報

主な著作

『大和に眠る太陽の都』

(学芸出版社)

『発光するアトランティス』

(人文書院)

『ヤマタイ国は阿蘇にあった』

(光文社)

『記号としての建築』

(昭和堂)

『安倍晴明へ占いの秘密』

(文英堂)

他多数